

アーサー王伝説く王様の剣く

登場人物（十五人）

アーサー
マーリン
ケイ（アーサーの義兄）
エクター（アーサーの養父）
モーガン（王女）
グウィネヴィア（モーガンの侍女）
ラーンスロット（湖の騎士）
ヴィヴィアン
エレイン（ラーンスロットの妹）
ガウエイン（騎士）
ガレス（騎士）
イズー（シスター ガレスの妹）
トリスタン（吟遊詩人 ガレスとイズーの弟）
モードレッド（騎士）
兵

一幕 オープニング

(鐘の音。マーリン、舞台中央板付き)

マーリン ご忠告いたしましたよう、ウーゼル王。この国はいずれ、あなたさまに忠誠を誓ったはずの諸国の王たちによって攻め込まれてしまうでしょう。御覧なさい、この緑豊かな平和な国を！ 争いの文字など、どこにも見えません。だからこそ、恐ろしいのです。

：：森深くに住む我が友、湖の姫が言うことには、ウーゼル王。あなたさまは次の戦争で危険な目に遭い、大変言いにくいことですが、あなたさまは命を落としてしまわれま

(一歩歩み出て)ウーゼル王。あなたさまのお子を、私めにお預けください。この城にいれば、あなたさまばかりでなく、そのお子さえ命を落としてしまわれましよう。そうしたとき、国は内乱により滅びてしまいます。すべては、この国の未来のために。

(再び鐘の音。時間が少し進んでいる。王様の剣が現れる)

マーリン 国中の民よ、よく聞きなさい。我らの偉大なる王、ウーゼル公は前の戦争によって亡くなられた。

さあ、よく御覧なさい。この剣はウーゼル王が最期に使われた剣ぞ。金床に刺さりしこの剣を抜くことができるのは王となるもののみ：：さあ、試すがよい。見事引き抜いた者こそ、新たなる我らが王ぞ！

(再び鐘の音)

— 暗転 —

一幕一場

(トリスタンの歌。アーサーとケイ、戦っている。ケイは卑怯な手を次々使って、アーサーに勝つ)

ケイ どうだ、アーサー、降参するか？

アーサー するもんか！ ひどいじゃないか、ケイ！ さっきから卑怯な手ばかり使って！

ケイ うるさい！ 勝てればいいんだ、勝てれば！ いいか、今このご時勢、いつ兵士として招集されるかわかりやしねえ。戦争に行ったら、生きて帰ってくることが一番大切なんだよ。場合によっては降参も必要だ。

アーサー ぼくはやだね。降参するくらいなら正々堂々戦って死ぬほうがマシさ。それにケイ、ケイは王さまになるんだろ？ 兵士になんてなるもんか。

ケイ まあ、確かにそのとおりだ。

トリスタン あはははは、アーサー、きみは本当にケイが王さまになれると思ってるの？

ケイ なんだと？ どういう意味だ、トリスタン！

トリスタン 今日の剣術大会、きつと優勝するのはサー・ガウエインだよ。

アーサー (聞いてない) あーあ、ぼくがもうちょっと早く生まれてたら、ぼくが王さまになれたかもしれないのに。

ケイ へへ、例えそうだったとしても、おまえが王さまになてなれるもんか。まあ、でも、よし。おれが王さまになったらおまえを……そうだな、国務長官に取り立ててやるよ。

アーサー ホント？ 約束だよ！ ……ところで、国務長官ってなに？

トリスタン 知るだけ無駄さ。ケイ、変な期待は持たせないほうがアーサーのためだよ

ケイ このやろう、減らず口叩きやがって！

(と、エクター登場)

エクター ケイ、ケイ！（見つけて）ケイ、なにしてる。行くぞ。

ケイ 親父！ もうそんな時間か。待て、支度してくる。

(ケイ、一旦去る)

アーサー トリスタン、今日はきみのお兄さんのガレスも参加するんだろ？

トリスタン うん。ま、だれも期待はしてないけどね。

エクター アーサー、今日はケイの邪魔をするんじゃないぞ。

アーサー 邪魔なんかしないよ。応援するだけさ。

(ケイ、マントを羽織って再登場)

ケイ 準備ができたぞ。行こう。

(四人、去る)

一幕二場

(マーリンとイズー登場)

イズー ついに今日、この国、イングランドに新たな王が誕生するんですね。

マーリン そうだのう：：しかし、少々急ぎすぎたんじゃないか？
イズー いいえ、マーリンさま。もう十五年の間、ずっと国王がいない国など、ほかにありませんか。このまま王の不在が続けば、国は荒れ果ててしまいますよ。なにしろ、例の剣を未だ誰一人抜けずにいるのですから。

マーリン 王様の剣か。もしもこの先、抜いた者がおつたらどうするのだ？

イズー お忘れになったのですか？ その場合でも、今日決定する王に続けていただくと、このあいだ発表されたではないですか。きつと混乱を招くでしょうからと、王女さまのお心遣いですわ。

マーリン そうだったかの。

(と、グウイネヴィア登場。イズーを見つける)

グウイネヴィア あっ、イズー！ こんなところにいたのね。

イズー グウイネヴィア。

グウイネヴィア もう、探したわよう。モーガン王女さまが、もうすぐ始まるからってお呼びよ。

イズー そう、わかったわ。ありがとう。

(マーリン、静かに去る)

グウイネヴィア それにしても、すごい人よね。

イズー そりゃそうよ。なんとたって優勝者は王さまになれるって国中に触れ回ったんだから。参加者も屈強な騎士ばかりよ。きっと素晴らしい王が勝ち残るわ。

グウイネヴィア そしてその方こそ、あたしの将来の夫！

イズー は？

グウイネヴィア あたし、決めてるの。将来、絶対この国の王さまと結婚して、王妃さまになって、一生不自由なく幸せに暮らすの！

イズー (諭すように) :: グウイネヴィア、夫婦とは富みや地位で結ばれてはいけません。愛で結ばれなくては。さもなくば、不幸な道を辿ることになるでしょう。

グウイネヴィア そんなことないわ、あたし、お金と地位があれば幸せよ。

イズー (呆れて) なんとということでしょう。グウイネヴィア、神はお嘆きです。

グウイネヴィア あー、イズーのばっかっ！ そんなのあたしの勝手でしょ。もう、行きましょう、始まっちゃうわ。あ、イズー、マーリンさまがどちらにいらっしゃるか知らない？
イズー なに言ってるの、こちらに:::あら？ さっきまでいらっしゃったのに:::??

一幕三場

(教会の前の広場。アーサー、走って登場。かなり慌てている)

アーサー はあ、やっと着いたあ。まったく、剣術大会に剣を忘れていくなんて、ケイもおっちょこちょいだなあ。

(アーサー、教会を通り過ぎ、自宅の前へ行く。ドアを開けようとすが開かない)

アーサー あれ？ 鍵がかかっている。(ドアを叩き)だれか、なかにいない？ ローズさん？ ルーシーさあん？ ねえ、開けてよ……だれかあ！

マーリン (いつのまにかいて)だれもおりやせんよ。

アーサー (驚き振り返って)……じいさん、だれ？

マーリン (それには答えず)おまえさんとこのメイドはみいんな、例の剣術大会を見に行つとるんだ。おまえさんの親父ど

のがそう許可したからな。だから、今その屋敷にはだあれもおらん。

アーサー そんなあ……(ハツとして)なんでそんなこと知ってるの？

マーリン ワシはなんでも知っておる。たとえば、おまえさんがここに来たのはおまえさんの兄、ケイ卿が剣を忘れて、取りに來させられたからだろ？

アーサー すごい！ そのとおりだよ！

マーリン でもどうするつもりだ？ 家には入れんのだろう。

アーサー そう、それなんだよなあ、どうしよう。(しばらく考えるが)いいさ、忘れたのはぼくじゃない、ケイなんだ。ぼくのせいじゃない……けど、このまま戻ったら……きつとすごく怒るぞ、どうしよう！

マーリン おまえさん、そんなにケイ卿が怖いのかい？

アーサー 怖いよ！ ケイは卑怯だけど、すっごく強いんだ。剣さえあれば今日の剣術大会だって優勝して、王さまになっちゃうさ。(自慢げに)ケイは王さまになったら、ぼくのこと取り立ててくれるって言った。

マーリン　　そうか、そうか。だがそれも、剣がなければ始まらないの。
アーサー　　あゝ、どうしよう。ねえ、じいさん。なんでもいいから
　　剣ない？　　ケイならきつと、どんな剣でも使いこなせる
　　よ。

マーリン　　そこにあるう。(王様の剣を指し示す) どうせここにあっ
　　ては用を成せぬ剣よ。持って行くといい。

アーサー　　ホント？　　ありがとう！

(アーサー、剣に駆け寄り、ゆっくりと引き抜く)

アーサー　　じいさん、これ借りてくね！

(アーサー、走り去る)

マーリン　　ああ、自由にするといい……それはあなたの剣です。新
　　たな王よ。

一幕四場

(ケイ、エクター卿板付き。身支度をしている)

ケイ　　ちくしょう、遅いな、アーサーのやつ。

エクター　　そう焦るな。もとはといえはおまえが忘れたんだろうが。

ケイ　　そうだけだよ……。

(と、アーサー駆け込んでくる)

アーサー　　持って来たよ！

ケイ　　来たか！　　剣をよこせ！

アーサー　　はい。もう始まっちゃう？

エクター　　もうすぐだ。ケイ、ワシらは観客席で見とるからな。

ケイ　　ああ……(剣を眺めて) ちょっと待て。おいアーサー、
　　こいつをどこから持ってきた？　　おれのじゃないぞ。

エクター　　なに？

アーサー　　ああ、そうだった。実は、家には鍵がかかっていて入れ

なかったんだ。そうしたら、変なじいさんがその剣を持って行っていいって言うから借りてきたのさ。ね、それよりトリスタンは？

エクター アーサー……これはもしや、教会の前に刺さっていたものではないのか？

アーサー 教会の前……？（思い出して）そう、その剣だよ。……いけなかった？

ケイ おい親父、そうしたんだよ。

エクター いけないことなどあるものか。ああ、なんとということだろう！

兵（突然舞台を横切って）大変だ、王様の剣が消えたぞー！

アーサー 王様の剣？

エクター 二人とも、来い。

ケイ 親父？

アーサー なんなのさっ？

（三人、順次去る）

一幕五場

（マーリン、騎士たち、イズー、トリスタン板付き。モーガン、グウイネヴィア登場）

モーガン 王様の剣が消えたとは、本当ですか？

全員 モーガン王女さま！

イズー 本当でございます、王女さま。このとおり……。

モーガン ……：…：…：…：…：…：…？

イズー それが、ここにはだれもいなかったのです。皆、剣術大会を観に出ましたから。

（エクター、ケイ、アーサー、順に登場）

アーサー あっ、あそこだよ。その剣が刺さっていたのは！

（全員一斉にアーサーを見る）

エクター アーサー、それは本当だな？
アーサー うん。

ガウエイン (ケイの持っている剣を見て) それは……！ ケイ卿、
その剣はあなたが抜いたのか？

ケイ え？ 抜いた？

ガレス そうだ、この金床に刺されし王様の剣……見事引き抜い
た者こそ王になるとされる、その剣を。

ケイ 王様の剣だって！？

グウイネヴィア ちょっと待ってよ、冗談じゃないわ。ケイ卿にそ
の剣が抜けるわけじゃない。

モーガン グウイネヴィア、あなたは黙ってなさい。

イズー お答えください、ケイ卿。あなたが抜いたのですか？

アーサー 違うよ、その剣はぼくが抜いたんだ！

全員 え！？

トリスタン アーサーが？ 冗談だろ、きみはまだ子どもじゃない
か。

アーサー なんだよ、信じられないの？ トリスタンだって子ども

じゃないか。

トリスタン そういう意味じゃない、ちゃんと話を聞いてたのかい？

エクター 王女さま、それに皆さん。アーサーの言ってることは本
当です。この剣はアーサーが、剣を忘れたケイのために
持ってきたのです。

ケイ おっ、親父、そんな大声で……

モードレッド 持ってきた？ じゃあ見ちゃいねえのか、そいつが
剣を引き抜くところは。

エクター え？ ああ、それはそうだが……

イズー い、いえ、疑っているわけではないのです。ただ……

グウイネヴィア 疑わしいわ！

イズー グウイネヴィア！ ……(咳払いをして)ただ、確証が
欲しいのです。アーサーが剣を抜いたという、確かな証
が。

アーサー 証？

ガレス おいイズー、なに言ってるんだ。こんな子どもに剣が抜
けるわけないだろう？

イズー でも兄さん！

ガウエイン 同感だ。今までどんな屈強の騎士だって、引き抜くどころか少し動かすこともできなかったというのに。

モードレッド おい、戻ろうぜ。大会の続きをやるんだ。ガキのたわ言に付き合ってもらえるかってんだ。

アーサー (マーリンに気付き) あっ、さっきのじいさん！

エクター あなたはマーリンさま！ アーサー、さっき言ったのはこのお方なのか？

アーサー うん。ね、じいさん。

マーリン (頷いて) して、王女さま。この場合、いかにして王を決めましょうかな？

イズー し、しかしマーリンさま。本当にこの子が剣を抜いたかはまだ……

ガレス 無駄だ、イズー。マーリンさま、ここはやはり当初の通り、剣術大会によって王を決められるがよいかと思えます。なあ、みんなもそう思うだろう？

イズー 兄さん！

グウィネヴィア それがいいわ。あたし、未来の夫がアーサーなんていやよ。

モードレッド グ、グウィネヴィアちゃんの夫お！？

モーガン グウィネヴィア！

ケイ おいおい、いったいどうすんだよ？

マーリン イズー。おまえさんは確か、もしこの先、王様の剣を抜いた者がおっても、今日決定した王に続けてもらうと……：そう言っとならう？

イズー は、はい、確かにそう申し上げました。では……！

マーリン 見ろ、決定したではないか。我らが王が、今日！

イズー は、はあ？

マーリン 見たところ、ほかに王もないようだの。

エクター マーリンさま、これはいったい？

マーリン (遮って) なんだ、皆まだ疑っておるのか？ 仕方あるまい……：剣を金床に戻しなさい。

ケイ は、はい。

マーリン よく聞きなさい。おのれのカと心に自信のあるものは、この剣を抜いてみるがよい。この剣を抜くことができるのは、もちろん王位継承者のみよ。さあ、試せ。見事抜くものがおれば、その者を王として認めよう。

(騎士たち、騒ぎながら次々に試すが抜けない。しかし促されアーサーが試すと、いとも簡単に抜くことができる。騎士たちやグウイネヴィアはますますいきり立ち、騒ぎ立てる)

歌「アーサー王反対」

モーガン いい加減になさい！

(静まり返る)

モーガン 期限を設けましょう。年が明けるまでです。それまで剣はここに置き、待ちましょう。もし抜く者があれば、城に来るのです。そしてだれもいなかったときには、アーサーを王と認めるのです。

一幕六場

(王宮のなか。モーガン・マーリン・グウイネヴィア板付き)

マーリン まさか王女さまがあのようにおっしゃるとは、思いもいませんでしたぞ。

モーガン すみません、勝手に。

マーリン いえいえ、あの場を収めるには正しい判断です。すぐに抜かねばならぬと言われれば、非難も受けましょう。まあしかし、どうせほかに抜ける者などおりませぬが。

グウイネヴィア どうしてですか？

マーリン じき、わかります。そろそろですかな。

モーガン え？ なにが…

(エクター・ケイ・アーサー、順に登場)

エクター・ケイ 失礼いたします。

アーサー わあ、すごい！ お城のなかって、こうなってたんだね！

ケイ (小声で) おいアーサー、静かにしてろよ。それが礼儀
ってもんだろ。

アーサー あ、ごめんなさい。

ケイ ほら、おまえもご挨拶くらいしろ。

アーサー う、うん。王女さま、それから…と、マーリンさま。
こんにちは。

マーリン いえ、アーサー王。私めのことは、マーリンとお呼びく
ださい。

アーサー あ、アーサー王!?

マーリン そうですとも。

アーサー なんか変な感じだなあ。

グウイネヴィア まったくだわ、アーサーが王さまだなんて。

モーガン グウイネヴィア。

グウイネヴィア 王女さま、あたしだってガウエインや他の騎士た
ちと気持ちは同じですわ、アーサーが王さまなんて思い
たくありません。アーサーなんて、トリスタンと遊んで
いればいいんだわ。あのナンチャッテ吟遊詩人と!

アーサー な、なんだよ、そんなの関係ないだろ! それにトリス

タンはすごいんだぞ、歌も豎琴もすごくうまいんだ!
…第一、ぼくはきみなんて知らないぞ。

グウイネヴィア あたしは知ってるもの。いい、あたしはね、将来
絶対王さまと結婚して、この国の王妃さまになって、一
生不自由なく幸せに暮らすのよ。なのに王さまがあのか
イ卿の弟だなんて、あたしはぜったいたい認めないんだ
から。

ケイ ちょっと待てよ、「あの」って?

アーサー ぼく、自分で思ってたよりずいぶん有名なんだね。

グウイネヴィア そうよ。卑怯者の騎士、サー・ケイの弟、弱虫ア
ーサーってね。

アーサー・ケイ なんだと!?

モーガン いい加減になさい! グウイネヴィア、あなたは下がっ
てなさい。

グウイネヴィア (不服そうに) はーい…。

(グウイネヴィア、去る)

マーリン やれやれ……さて、本題に入りましょうかな。

アーサー 本題？

マーリン そうですとも。今日、あなた方をお呼びしたのは他でもない。我らが王、アーサーの出生についてを話そうと思つての。

アーサー ぼくのこと？

マーリン はい。……偉大なる王、ウーゼル公には四人のお子がいらっしゃった。うち上の三人は皆姫君でして、モーガン王女はその三番目のお子での、他の王女たちはご存知のとおり、他国の王のもとへ嫁いでいかれた。そして十五年前にお生まれになったお子は、それは玉のような男の子でした。

アーサー それって王子さま？ 十五年前だから……ぼくと同じか。それで、どこにいるの？

マーリン (頷いて) ちょうどその頃から、国外から反逆者が攻め入ってきましたな。そこで私は、王子さまを王からお預かりしたのです。

エクター では、まさか！

マーリン そう。アーサー王、あなたこそそのお子、王子さまなのです。

アーサー ぼくが？

エクター (突然アーサーに跪いて) アーサー王、知らなかったこととはいえ今までの数々のご無礼、どうかお許しく下さい！

アーサー ええ？ と、父さん？

ケイ ちょっと待ってくださいよ、アーサーはおれの弟だろ？ 王子なわけねえじゃねえか！ 親父までなにやっつんだよ。

エクター アーサーは……いや、アーサー王は昔、マーリンさまが私に預けていかれたお子なのだ。アーサー王。私はあなたの本当の親ではないのです。このケイもあなたの本当の兄ではございません。しかし、私も夫婦は、あなたさまも本当の子のように思い、育ててまいりました。どうかこれ以後も、あなたさまを我が子と思うことをお許しく下さい。

アーサー ……当たり前だよ。父さんはぼくの父さんだろ？ それにケイはぼくの兄さんだ。ぼくだって、これまでも、こ

れからもずっとそう思ってるさ。

エクター ありがとうございます。

アーサー やめてよ父さん。

ケイ ……。

モーガン では、アーサー王は正統な王位継承者なのですね。

マーリン さようございます。さて、アーサー王にモーガン王女。

戴冠式の日取りを決めましょうかの。

アーサー タイカンシキ？

モーガン あなたが初めて王冠を戴き、即位したことを国内外に示す儀式ですわ。

アーサー うーん、よくわからないけど……面倒くさいんだね。

モーガン でも、大事なことですから。

マーリン そうですとも。さて……。

一幕七場

(教会前の広場に、騎士たち、トリスタン、板付き。騎士たちは懲りずに剣を抜こうとしている)

トリスタン もう、いい加減に諦めたら？ 見たろ、アーサーはあ

んなに簡単に抜いたんだよ。

ガレス もしかしたら、次におれが触れたときにスツと抜けるか

もしれない。

トリスタン また、兄さんは。そう言って何度も試してるじゃないか。

ガウエイン だが実際、抜けそうな気はする。

モードレッド このままじゃ、本当にあのガキが王さまになって、

グウイネヴィアちゃんと結婚しちまう！

ガレス なんだモードレッド。おまえ、あの子が好きなのか？

モードレッド ば、ばか、そうは言ってねえだろ！ おれはただ、

あいつと結婚だなんて気の毒だなど……。

トリスタン 気の毒なのはアーサーのほうさ。

モードレッド なっ、なんだと？ グウィネヴィアちゃんと結婚できたら世界一の幸せ者だろう！
ガウエイン 関係ない、そんなこと。彼女が勝手にそう言ってるだけだろ。

モードレッド そうだけだよ……。

トリスタン ……そうだ、あの人は試したのかな。

騎士たち あの人は？

トリスタン 有名だから聞いたことくらいあるだろう？ 森の深く、

湖のほとりに住み、どんな強い騎士もたちまちに負かしてしまふ。平和を愛し、騎士のなかの騎士といわれる湖の騎士、サー・ランスロットだよ。

モードレッド サー・ランスロットお？

ガウエイン・ガレス そうか、彼なら……！！

一幕八場

(森の奥の家。ランスロット、掃除をしている。ヴィヴィアンとエレイン、菓子を食べてはゴミを撒き散らす)

ランスロット ヴィヴィアンさま！

ヴィヴィアン なんじゃ。

ランスロット 「なんじゃ」じゃないでしょう。先ほどから食べては捨て食べては捨て！ 掃除をするこっちの身にもなってください。

ヴィヴィアン よいではないか。これもおぬしの修行になるゆえ。

エレイン いい召使いになれないぞ、ランスロット。

ランスロット エレイン！

ヴィヴィアン そうだとも、なあ、エレイン。……ん？ おぬし……騎士だったかな？

ランスロット ヴィヴィアンさま……。

ヴィヴィアン ん？ おお、ランスロット、大変だ！

ランスロット な、なんですか？

ヴィヴィアン 菓子がなくなった。買って来い。

エレイン エレインのも!

ランスロット またですかあ? 一昨日買ってきたばかりじゃないですか。

ヴィヴィアン うるさい! つべこべ言わずにとっとと行け!

ランスロット はいはい。まったく……(身支度をして)では、

行ってまいります。

ヴィヴィアン 時刻までには帰って来いよ。

(ランスロット、去る)

ヴィヴィアン 人間さえいなければ、とっとと街に出て毎日でも菓

子を漁り回るののう……それにあの、伝説のお菓子も

……ハッ! まさか、マーリンが独り占めしてるんじゃない

……?

エレイン ねえヴィヴィアンさま。ランスロット、剣を忘れていったよ。ほら。(と、ランスロットの剣を見せる)

ヴィヴィアン なに? あのマヌケめ。これでよくぞ騎士などと名

乗るものじゃ。……待てよ? そうか……そのときが来たのか。

エレイン ヴィヴィアンさま?

ヴィヴィアン よし、エレイン。これから街に出るぞ。荷物をまとめろ。

エレイン えっ、本当?

ヴィヴィアン そうだ。早くな、しばらく戻らんぞ。やっと始まっ

たか……待ってなさい、マーリン。

一幕九場

(アーサー、マーリン登場)

アーサー じゃあ、戴冠式は一週間後の、一月一日にやるんだね。
マーリン ええ。また、それまでに引越しも致しますからな。忙しくなりますぞ。

アーサー ぼくがこのお城に住めるなんてなあ！ ……あ、でも、
父さんたちは？

マーリン ちゃんと準備してございます。

(モーガン、エクター登場)

エクター おお、こちらにおられましたか、アーサー王。
アーサー 父さん。どうして王女さまと一緒に？

エクター このたび、私、王女さまの護衛に任じられました、アーサー王の引越しとともに、私とケイも城に住まわせて頂けることになりました。

アーサー 本当！？ やった、ってことはこれからもみんなで暮らせるんだね！

マーリン そういうことです。では、私はそろそろ…

モーガン どうされました？

マーリン 戴冠式の日取りも決まったことですし、各国の王にもお報せしなくては。(考えて)……ふむ。あやつも呼ばなくてはな…。

モーガン どなたです？

マーリン 湖の姫、ヴィヴィアンです。

モーガン ああ、ヴィヴィアンさま。

アーサー ヴィヴィアンさま？

マーリン 王もじき、お目にかきましょう。では私は…

(と、突然怪しげな光が舞い、ヴィヴィアンの高笑い響く)

マーリン む…この声は。

(ヴィヴィアン、エレイン、どこからともなく登場)

ヴィヴィアン はっろ〜、マーリン、お久しぶり！
エレイン はっろ〜！

歌「ヴィヴィアンのテーマ」

マーリン ヴィヴィアン、普通に登場できぬのか。
ヴィヴィアン いいじゃないのう、マーリンに会えると思ったら嬉しくて。

マーリン どうしたんだ、森から出てくるとは。

ヴィヴィアン ん〜、ウチのマヌケな召使いを追いかけて来たんだけど……

エレイン 違うよヴィヴィアンさま、騎士だよ。

ヴィヴィアン ……まあどちらでもよい。ここにはいないみたいねえ。

マーリン ちょうどよい。ヴィヴィアン、こちらが新たな王、アーサーだ。

アーサー この人がヴィヴィアンさま？ ただの女の子みたいだ。

ヴィヴィアン (アーサーに気付き) このコが王さま？ ただのガキじゃない。

アーサー なんだとお！

マーリン やめんかヴィヴィアン。アーサー王も落ち着いてください。

ヴィヴィアン あーあ、ムキになっちゃって。だからガキは嫌いよ。

ね、マーリン。そんなコ放つといて、一緒にお茶しましよ。さあ、レッツゴー！

(ヴィヴィアン、強引にマーリンを連れて去る。ほか四人もアドリブでついて行く)

一幕十場

(教会前。騎士たち、懲りずに剣を抜こうとしている。イズーとグウイネヴィアは話で盛り上がり、トリスタンは豎琴を弾いている。そこへ、ケイ、のんびり歩いてくる)

ケイ　　はああ、暇だなあ……なにしてたんだ、おまえら。

トリスタン　ケイ!

ケイ　　アーサーならお城に行ったぞ。

トリスタン　知ってる。グウイネヴィアに聞いたよ。

グウイネヴィア　王女さまだったらひどいのよ。今日はアーサーが来るからあたしは外に出てろだなんて。あたしは王女さまの侍女なのよ!

イズー　　でもあなたがいたら、またケンカになるでしょう。まったく呆れたわ、昨日の話には。

モードレッド　グウイネヴィアちゃんが悪いんじゃないさ、アーサーのやつ図に乗りやがって。安心しろよグウイネヴィアちゃん。この剣は絶対おれが抜いてみせるからな!

グウイネヴィア　もしモードレッドが抜いたら、あたしは尼になるわ。

モードレッド　そつ、そんなあ、グウイネヴィアちゃん!

イズー　　もう、いい加減諦めたらどう?

ガレス　　いいや、おれは諦めないぞ。このままあのガキが王になんかになったら、おれたちはあいつに忠誠を誓わなきゃならないんだぜ。

ガウエイン　　そうだ。いくら王とはいえど、自分より弱いものになど従いたくはない。

ケイ　　おいおい、それは戦ってみなきゃわかんねえだろ?

グウイネヴィア　　あら、ガウエインの言ってることは正しいと思うわ。彼よりアーサーが強いとは考えられないもの。

ケイ　　アーサーはまだ騎士でもないんだ、それに歳の差もある。同じ歳なら互角か、それ以上かもしれないぞ。

グウイネヴィア　　あらあ、歳の差って一生縮まらないのよ。

(ケイとグウイネヴィア、アドリブで言い争う。トリスタン、ションボリしている)

イズー どうしたの、トリスタン。

トリスタン ……うん、なんでもないよ。

モードレッド ふん、おまえも親友が王になるのはいやなんだろう？
わかってるぜ、しよせんガキの友情なんてそんなも
ん
さ。

イズー モードレッド卿、そんな言い方…

モードレッド 本当のことさ、はっきり言ったらどうだ？ もうア

ーサーの親友はやめるってよ。

ケイ おい……!

イズー (モードレッドを引っ叩いて) 止めなさい、いくら剣が

抜けないからって、人に当たるなんてみつもないわ!

モードレッド なんだと？ このやろう!

(モードレッド、勢いに任せて剣を抜き、イズーに切りかかる)

イズー きゃあああ!

ガレス イズー!

トリスタン 姉さん!(同時に)

(ラインスロット、タイミングよく出てきて、手持ちのお菓子
でモードレッドを阻止する)

モードレッド なんだ、てめえ?

ラインスロット おやめなさい、女性に剣を振るうとは騎士道に反
します。

モードレッド ふんっ、そんなものでやる気か? 覚悟はできて
る
んだらうな!

(二人、争いになる)

ガレス おい、やめろモードレッド!

ガウエイン あの騎士…どこかで見たような……?

(ラインスロット、ついにお菓子の袋を落とす)

モードレッド 身の程知らずめ！

(モードレッド、とどめをさそうとする。が、グウイネヴィアが後ろから抑える)

グウイネヴィア モードレッド、やめて！

モードレッド グ、グウイネヴィアちゃん！ でも……

(ランスロット、その隙にモードレッドから逃れて王様の剣に駆け寄る。と、ヴィヴィアン、マーリン、エレイン、アーサー、モーガン、エクター、順に登場。ランスロット、王様の剣を引き抜く)

全員 あっ！

ランスロット (剣を構え) さあ、来い！

アーサー 王様の剣が……！

エレイン あー、ランスロット！

ランスロット ヴィヴィアンさまにエレイン……どうしてここ

に？

ガウエイン そうだ、サー・ランスロット……湖の騎士だ！

グウイネヴィア 素敵！ あの湖の騎士さまが剣を抜いてしまわれるなんて！

モーガン ああ、なんとということでしょう！ マーリンさま、これはいったい……？

マーリン ……ヴィヴィアン、おまえの仕業か。

ヴィヴィアン なにか？

グウイネヴィア 王女さま、ご覧になりましたよね。この方こそ新しい王さまですわ。ねっ！ (モードレッドを睨みつける)

モードレッド え？ あ、ああ、そうです、そうです……なっ？

ガレス は、はい。

ランスロット 王さま？

ヴィヴィアン ランスロット。今おぬしが持っているのは、その金床から引き抜いた者こそ王になれるとされる、王様の剣だ。

ランスロット 王様の剣？ でもヴィヴィアンさま、私は王さま

になるつもりなど……

グウィネヴィア ダメよランスロットさま、あなたは剣を抜いたのよ。もしあなたが王にならないなら、あのアーサーが王さまになっちゃうんだから。

ランスロット ならそれで……

モードレッド だ、ダメだダメだ。あんなガキ、おれたちは王にしたかねえんだ。

イズー モーガン王女さま、この場合、どちらが王になるのですか？

モーガン それは……

ヴィヴィアン 試合をするというのはどうだ？

全員 試合？

ヴィヴィアン そうとも。投票という手もあるが、……ふん。それではあまりに、ランスロットに有利すぎるろう。

ガレス 確かにそうですね。

トリスタン で、でも試合だって同じだよ。アーサーはまだ、試合なんかしたことないんだ。

グウィネヴィア いいじゃない、そうしましょうよ。アーサーが騎

士さまに敵うはずないわ。だって、あのケイ卿の弟よ。

ケイ なんだと？ このやろう、ばかにしやがって……！ ア

ーサー、この試合受けてやれ。おまえはおれがみっちり稽古つけてやる！

アーサー ケイ！

ケイ 後悔するなよ、絶対アーサーを勝たせてみせるからな！

グウィネヴィア ふん、できるものならやってみなさいよ！

モーガン グウィネヴィア。
マーリン 仕方ありません。モーガン王女、こうなっちゃった以上、戴冠式は日延べいたしましょう。その代わりに、アーサー、それにランスロット卿の、剣を用いての試合を行いましょう。

ランスロット いいえ、私は王になるつもりなどありません。試合は辞退させて……

ケイ なんだなんだ、そいつ、本当にあの湖の騎士なのか？

偽者じゃねえだろうな。

ランスロット なに！

ヴィヴィアン そうかも知れぬ。試合に出よというのに辞退するな

ど、湖の騎士が聞いて呆れる。

ラインスロット ヴィヴィアンさま……!!

ヴィヴィアン アーサーといったか。こちらはいつでも戦えるぞ。

マーリン 決まりだ。試合は一週間後、年明けの日に行おうぞ!

一幕十一場

(アーサー、マーリン板付き)

アーサー 試合かあ……まさかこんなことになるなんてなあ。

マーリン しかしきつと……

アーサー 負けちゃうさ。あの人の噂は聞いたよ。湖の騎士、サー

・ラインスロット。礼儀は正しい、器は広い、オマケに
剣ではだれにも負けない。勝てっこないさ。

マーリン ネガティブはよくありませんぞ。ポジティブに参りま
しょう。

アーサー できるものならね。……そうだ、それよりさ、訊きたい
ことあったんだ。あのヴィヴィアンさまって何者?

マーリン ヴィヴィアンですか。私と同様、魔法使いでございます。

アーサー 魔法使い? 待って、マーリンで魔法使いなの?

マーリン はい。……申し上げておりませんでしたかな。

アーサー 知らなかった。ね、じゃああのサー・ラインスロットは?

マーリン 存じませぬ。普通の人間でございましょう。

アーサー どうして剣が抜けたのかな……ぼくしか抜けないはずでしょ？

マーリン だいたい見当はついております。しかし、あなたがこのイングランドの王であることに相違ありません。

アーサー ラーンズロットに勝てたらね。

マーリン ご心配なされるな。あなたはあなたが思っているよりずっと、武に長けております。

アーサー 嘘だあ、ぼく、まだ一度だってケイに勝ったことないんだよ。……そうだ、ケイに剣を教えてもらう約束をしてたんだっけ。ぼく、行ってくるね。

(と、ケイ、きよろきよろしながら登場)

ケイ アーサー！ やっと見つけた。

アーサー ケイ！ 今から行くところだったんだよ。どうしたの？

ケイ 王女さまがお呼びだ。あ、マーリンさまも。なにか、大事なものを渡すとかで。

マーリン おお！ では王女さまはアレを！ アーサー王、すぐに

お城へ向かいましょう。

アーサー う、うん。マーリン、アレって？

マーリン すぐわかります。さ、急ぎましょう。

(三人、去る)

一幕十二場

(城のなか。モーガン、エクター、ヴィヴィアン、エレイン付き)

ヴィヴィアン モーガン、いったいなにがあると言うのだ。もう十分も待ってるぞ。

エレイン ヴィヴィアンさまあ、お腹すいた……。

モーガン もうすぐですわ。

(アーサー、マーリン、ケイ、登場)

アーサー 王女さま！

モーガン アーサー王。お待ちしておりました。

アーサー どうしたの？ ヴィヴィアンさままで。

ヴィヴィアン 呼ばれただけだ。

モーガン こういふときですから。

アーサー こういふときって？

モーガン (エクターに) 例のものを持ってきてちょうだい。

エクター はい。

(エクター去る)

モーガン 今日、ここにお集まりいただいたのは他でもありません。

この城、我が一族に伝わる聖剣エクスカリバーを、アー

サー王に伝承するためですわ。

全員 エクスカリバー？

(エクター、剣を持って登場、モーガンに差し出す)

エクター 王女さま、こちらに。

モーガン ありがとう。(剣を受け取り、確認をして) この剣は他のどんな剣より鋭く、また鞘には神聖な魔法がかけてられています。きつとあなたの力になりますよ。

(モーガン、アーサーに剣を渡す)

アーサー これが……ぼくの剣？

モーガン そうです。……本来なら戴冠式の日を受け継がれるものなのですが、状況が状況ですし。今度の試合でお使いください。

マーリン アーサー王。鞘をお腰におかけください。そうすることで、剣はあなたさまを主と認めましょう。

アーサー うん。(鞘を腰にかけ、剣を抜き掲げる)……すごい。なんだか不思議な力を感じる。

エレイン キレーー！

(ヴィヴィアン、そっと去る)

モーガン でもアーサー王、これだけは覚えておいていただきたいのです。

アーサー なに？

モーガン その剣を、決して無闇に振らないでください。その剣は先にも申し上げましたとおり、大変鋭い剣です。きつと

人の心すらもたやすく傷つけてしまうでしょう。

アーサー わかった、約束する。

モーガン (微笑んで) 鞘の魔法には邪気を払い、身を清める力があります。正しい使い方をすれば、きつとあなたの意思にそむくことはないでしょう。決して手放すことのないように。

アーサー うん。

エレイン ……あれ？

(エレイン、ヴィヴィアンがないことに気付いてきよろきよろする)

ケイ ……あれ、ヴィヴィアンさまってのは……どこ行ったんだ？

マーリン (ボソツと) あやつ……。

一幕十三場

(道端。ガウエイン、ガレス、モードレッド、グウイネヴィア、トリスタン登場)

ガレス 試合かあ……面倒くさいこと考えるなあ。

ガウエイン なに、きつとランスロット卿が勝つさ。なんとって

湖の騎士だ。

グウイネヴィア いいえ、安心してはいられなくなったわ。

モードレッド どうしてだい、グウイネヴィアちゃん。

グウイネヴィア その試合で、アーサーは聖剣エクスカリバーを使
うらしいの。

四人 聖剣？

グウイネヴィア 王家に伝わる最強の剣よ。どんなにアーサーが弱
くても、エクスカリバーを使ったら……

トリスタン アーサーは強いよ。そりゃ、ケイには勝ったことない
けど。

モードレッド なんだ、トリスタン。おまえ、どっちの味方なんだ？

アーサーにつく気か？

トリスタン 本当のことを言っただけさ、アーサーは強くなってる。

近いうちにケイにだって勝っちゃうさ、ぼくはずつと見
てたんだ！

ガレス

トリスタン、おれたちはなにも疑っちゃいない。でもお
まえだってアーサーに王にはなってほしくないんだろ？
なら、ランスロットさんが勝つことを信じようじゃ

ないか。

ガウエイン おれが剣を抜いていたなら、もっと話は早かったんだ
がなあ。

グウイネヴィア ランスロットさまでよかったわ、あたしの未来
の夫は彼以外考えられないもの。

モードレッド そ、そんなあ、グウイネヴィアちゃん……

(などなど、アドリブで騒ぐ)

モードレッド とにかくだ！ こうなったらアレだ、確実にアーサ
ーのやつを負けさせる方法を考えるんだ！

ヴィヴィアン（声） 教えてほしいか？

全員 えっ？

ヴィヴィアン（声） おまえたち、わたしと手を組まぬか。アーサ

ーを引きずり落とすための知恵を貸してやろう。

グウィネヴィア この声……まさか！

（ヴィヴィアン登場）

全員 ヴィヴィアンさま！

ヴィヴィアン 答えよ。……おまえたちに損はなからう？

（五人、顔を見合わせ頷く）

ヴィヴィアン 決まりだ。……マーリン、あなたにわたしの邪魔はさせない。ハーツハツハツハツハツ……！

—幕—

二幕オープニング

声 あの女は魔女だ。

声 あの女は王が死ぬことを予言した。

声 不吉な女だ……きつとこの国を滅ぼす気だ。

声 近寄るな魔女！ この国から出て行け！

（暗闇のなか、ヴィヴィアンが現れる）

ヴィヴィアン 数年後……王子が生まれる。その後、戦争が始まり

国王は死ぬ。

声 黙れ魔女！ 戦争が起こるだと？ 国王が死ぬと？ で

たらめを言うな！

声 魔女狩りだ！ 裁判だ！ 火あぶりの刑だ！

声たち 火あぶり！ 火あぶり！ 火あぶり！（だんだん強く、

繰り返す）

ヴィヴィアン 嘘など言っていない！ ……なぜ？ 同じ魔法使いでも、マーリンは国王に仕えていると聞く……なぜわた

しだけ！

声たち 火あぶりだ！

ヴィヴィアン やめろ——っ！

(ヴィヴィアン、走る。と、そこは森のなか。赤ちゃんの泣き声が響く)

ヴィヴィアン ……こんな森の奥に……この季節、放っておけば半日で凍えてしまうというのに……哀れな。育てられぬなら生まなければよいものを！ 人間とは……なんと愚かなものよ。(去ろうとして)いくら泣けど……だれも来やせぬ。

(ヴィヴィアン、去る間に立ち止まり、振り返る。暗転と共に鐘の音。暗いまま、マーリンの音が響く)

マーリン(声) この剣を見事引き抜いた者こそ、新たなる我らが王ぞ！

(明るくなると、そこは教会の前の広場。金床に刺さった剣に、マーリンが魔法をかけている。ヴィヴィアンはそれを陰で見つめ、マーリンはしばらくして去る)

ヴィヴィアン くだらん……(そっと金床に歩み寄る)こんなものでうまくいくと思ってるのか？ ばかめ……(剣に新たな魔法をかける)せいぜいわたしのために働くがいい。わたしの幸せを奪った罪は重いのだ！

二幕一場

(エクター、ケイ、剣の練習をしている。そこへアーサー、剣を持って出てくる)

アーサー ゴメン、寝坊しちゃったよ……。

ケイ 遅いぞ、アーサー！ 見ろ、もうすぐ日がてっぺんに来るぞ。

エクター ケイ！

アーサー ゴメンって。昨日の引越して疲れちゃって。

ケイ なに言ってるんだ、なにもしてなかったくせに。

エクター ケイ、おまえというやつは……そこに直れい！

ケイ お、親父、落ち着けよ……

(二人、アドリブで騒ぐ)

アーサー (どこか遠くを見て) あれ？ マーリンだ……一人でどこに行くんだろ。父さん、ケイ、ぼく行ってくるね。

(アーサー、去る)

ケイ えっ？ おい待て、おれも行くよ。(エクターに向き直り)

王さま一人じゃ危険でしょうから、行ってまいります、

父上。おい、アーサー、待ってっ！

(ケイ、逃げるように走り去る)

エクター ケ、ケイ！ ……まったく。

二幕二場

(ラインスロットが剣の練習を、エレインがそれを眺めているところへ、マーリンが現れる)

マーリン ほほう、なるほど、なかなか……のう。

エレイン あっ、マーリンさま！

マーリン おまえさんはエレインだったな。

ラインスロット どうなされたんですか？

マーリン 敵情視察だ。

ラインスロット 敵情視察ですか。

マーリン ヴィヴィアンはいるかの？

エレイン ヴィヴィアンさま、いないよ。朝、どっかに行っちゃったの。

マーリン そうか……一人でか？

エレイン うん。

ラインスロット 夕刻には戻られると思いますが。なにかお伝えしましょうか？

マーリン いや、いい。ちょうどよい、おまえさんたちにも訊きたいことがある。

ラインスロット はい……なにか？

(と、そこへアーサー、登場)

アーサー どこだろ、ここ……あ、ラインスロット！

マーリン おや、アーサー王。どうしてここへ？

アーサー マーリンを追いかけてきたのさ。……ああ、邪魔しちゃった？

マーリン ……私は構いませぬ。(ラインスロットに)よろしいかな？
ラインスロット もちろんです。ところで訊きたいこと、とは？

マーリン ふむ。いや、なに……おまえさんが答えたくなければ、それでもいいんだがな。

ラインスロット はい？

マーリン おまえさんたちは……何者だ？

三人 え？

マーリン ヴィヴィアンに子どもはいない。兄弟なんかもおらんし、

親族ではなからう？ どういう関係だ。

ランスロット ……ああ、そのことですか。実は…私たちは、
ヴィヴィアンさまの養子なのです。

アーサー 養子？

エレイン エレインはね、ランスロットが拾ったの。でもお母さ
んはヴィヴィアンさまなの。

アーサー なあんだ、ランスロットもエレインも、ぼくと同じな
んだね。

エレイン 同じ？

(マーリン、そっと去る)

アーサー ぼくもさ、養子なんだって。最近知ったんだけどね。父
さんもケイも、本当の家族じゃなかった。

(ケイ、やっと追いついて出てくる)

エレイン 養子だと、本当の家族じゃないの？

アーサー そんなことないさ、父さんはぼくの父さんだし、ケイは
ぼくの兄さんだし…

ケイ おいアーサー！ マーリンさまは？ どこ行っただ？

アーサー ケイ！ マーリンならここに…あれ？ どこ行っちゃ
ったんだろ…。

ランスロット いつの間に…。

ケイ あー、もう走りたかないぞ。アーサー、もう諦めろ。マ
ーリンさまだって暇じゃねえんだ。

アーサー うん……あーあ、マーリンってばいつもこうなんだから。
ケイ まったく、神出鬼没ってのは、あの方のためにあるんだ
ろうな。

アーサー シンシュツ…キボツ？

ランスロット 神さまとか悪魔などのように突然現れたり、いな
くなったりすることですよ。

アーサー へえ……ランスロットって頭いいんだね。

エレイン だってヴィヴィアンさまに教えてもらったんだもん。

アーサー ヴィヴィアンさまに？

エレイン そうだよ。ヴィヴィアンさまってすごいんだから。ラー

ンスロットはね、学問も、礼儀も、剣だってヴィヴィアンさまに習ったの！

アーサー 剣も？

エレイン うん。

ランスロット 私が湖の騎士と呼ばれるのも、ヴィヴィアンさまあつてのものですよ。

エレイン エレインもね、今度教えてもらうの。

ケイ にしても情けねえなあ、アーサー。これから王さまになろうってのに、礼儀も学問もできねえなんてよ。

アーサー そっ、それはこれから覚えるよ。

ケイ どうだか。そうだ、おれが教えてやるよ。今夜からみっちりな。

アーサー ええっ！ い、いいよ、ケイだって忙しいだろうし……さっ。

ケイ いやいや、可愛い弟が立派な王さまになるんならどうってこたねえさ。おれに任せろ。

アーサー でもほら、ランスロットが王さまになるかもしれないし……

ランスロット いえ、私は王さまになるつもりなどありません。

アーサー王、ここはケイ卿の言うとおり、学問に励んでみてはいかがでしょう。

エレイン アーサー、おばかになっちゃうよ。

アーサー な、なんだよエレインまで！ わかったよ、やるよ、やる。……まったくもう……それにしてもマーリン、結局どこに行っちゃったんだろう。

エレイン マーリンさま、ヴィヴィアンさまを探してたよ。

アーサー ヴィヴィアンさまを？ ……ふうん……。

二幕三場

(ヴィヴィアン、ガウエイン、ガレス、モードレッド、グウイ
ネヴィア、トリスタン、板付き)

ヴィヴィアン というわけで、アレさえ手に入ればアーサーは確実
に負け、ランスロットが王位に就こう。

五人 なるほど。

グウイネヴィア さっすがお姉さま、素晴らしいアドバイスですわ！
ガウエイン しかし……こんなことがうまくいくでしょうか。

ヴィヴィアン 案ずるな、必ずうまくいく。それとも、自信がない
のか？

ガウエイン いえ、そういうわけでは……

ヴィヴィアン ふん、できぬなら今のうちに言え、おまえたちに期
待はしとらん。

ガウエイン できないというのではありません。ただ、おれも騎士
の端くれです。こんな卑怯な真似をするのは、騎士道に
反します。

ヴィヴィアン 黙れ。おまえが騎士だと？ 笑わせるな。自らを騎

士と名乗ろうとするならば、アーサーが剣を抜いたとき
に潔くやつを王と認めておればよいのだ。

ガウエイン でもおれは……

ヴィヴィアン よいか。さっき言ったとおりにせよ。くだらん貴様
のプライドなど捨てなくば、ランスロットを王にはで
きぬぞ。

グウイネヴィア なにウジウジしてるのよ、ガウエイン！ こんな
の迷うことじゃあないわ。

モードレッド そうそう、せっかくヴィヴィアンさまがこうして協
力してくださいませんか。

ガレス ここでやめる手はねえよ。な、ガウエイン。

ヴィヴィアン いずれにせよ、おまえたちの望むとおりに成すには、
従うしかあるまい？ ……よい、計画は明日決行だ。や
る気のあるものだけここに来い。

(ヴィヴィアン、去る。五人、それを見送る)

ガレス どうしたんだよガウエイン、おまえらしくもない。怖気
づいたのか？

ガウエイン うるさい！ おまえたちはなにも感じねえのか？

モードレッド なにをだよ。

ガウエイン 心の痛みさ。

三人 ……さむ……。

ガウエイン と、とにかく、おれは降りる。こんなことをせずとも、
神がよりふさわしい王を選んでくださるだろう。やるな
らおまえたちだけでやってくれ。

(ガウエイン、去る)

グウィネヴィア なによ、意地張っちゃって。つまらない男！

モードレッド でもそうだよなあ、あの騎士が本当に王にふさわし

ければ、なにもしなくても結果が…。

グウィネヴィア なによ、モードレッドまでやめる気？ あたし

のために頑張ってはくれないのお？

モードレッド なに言ってるんだよ、そんなわけねえだろう？ グ

ウィネヴィアちゃんのためならなんだってするよ！

トリスタン 兄さん、ぼく、先に帰るね。

ガレス え？ あ、ああ…。

グウィネヴィア ちょっと待って、トリスタン。先に言っておくけ
ど、いい？ あなたも同盟者なんですからね。他言した

らただじゃおかなくてよ。

トリスタン わかってるよ。じゃあ。

(トリスタン、去る)

ガレス なんだあいつ…。

二幕四場

(金床の広場。マーリン、板付き。そこへヴィヴィアン登場)

マーリン どこへ行つとったんだヴィヴィアン。

ヴィヴィアン マーリン！ ……ちよつとね。

マーリン うまくやったのう……ウシとしたことが、してやられたわい。

ヴィヴィアン なんのことかしら？

マーリン ラーンスロットに剣を抜かせたのは、おまえだな。

ヴィヴィアン いいえ、偶然よ。あなたも知ってるでしょ。

マーリン では王様の剣にかけられた魔法を解き、新たな魔法をかけたのはおまえだな？

ヴィヴィアン ……。

マーリン ほかにだれもおりやせんて。

ヴィヴィアン ……そうよ。「アーサーのみに抜ける剣」ではなく、「ラーンスロットにも抜ける剣」にするためにね。

マーリン 王になるのはアーサーだ。しかし、いかに王子といえど

エクター卿に預けられ、だれの子とも証明できぬアーサーを王にするためには、これしかなかったのだ。

ヴィヴィアン わかっているわ。あなたがどれだけ苦心してこのような方法を取ったのか。でもね、わたしにもこの方法しかなかったの。わかってね。

マーリン なにを企んでおる……。そもそも、捨てられていたラーンスロット卿を拾い、育てたことから怪しい。おまえは子ども嫌いだっつろう。

ヴィヴィアン さっすがマーリン！ でも考えすぎだわ、ラーンスロットを拾ったのは二十年以上も前よ。もちろんウーゼル王も生きていた。王にしようだなんて……

マーリン おまえは未来を予知する能力を持つとったな。……白状しろ。知つとったんだろ、ワシが王様の剣の伝説を作ることも、ラーンスロットが屈強の騎士になることも。

(ガウエイン登場。二人に気付き、隠れて様子を伺う)

マーリン ラーンスロット卿に剣を抜かせれば、この国を支配する

こともたやすい。違うか？

ヴィヴィアン ……。

マーリン さあ…：言え！

ヴィヴィアン …：くくく…：ハーツハッハ！ ばかな人。気付かぬフリでもしていればよいものを。

マーリン 認めるのか。

ヴィヴィアン そうね、やつを王にしてこの国を支配するのもいいかもしれないわ。

マーリン どういう意味だ？ おまえの目的は…：まさか、アレを？
ヴィヴィアン うるさい！

（ヴィヴィアンの魔法。マーリン、その場から動けなくなる）

マーリン な、なにをした？

ヴィヴィアン 心配要らないわ。あなたを殺そうだなんて無謀なこと考えちゃいない。魔法で争ったらあなたに勝てやしないもの。ただ、あなたをここに封じておくだけ…：。

マーリン なにを考えておる…：。

ヴィヴィアン 正直、邪魔なのよ、あなたの存在って。でも、あなたのお陰で王家とも縁を持った。感謝してるわ。

マーリン 心にもないことを。

ヴィヴィアン なんとでも言うがいいわ。おまえの役目は終わったのだ。

マーリン 妙にワシに懐いてると思ったら、それさえも偽りか。

ヴィヴィアン だれが好き好んでおまえのような老いばれに惚れるものか。

マーリン 策士め、いずれ策に溺れようぞ。

ヴィヴィアン 負け犬の遠吠えね。負け犬は負け犬らしく、骨でもかじってなさい。大丈夫よ、あとはわたしがうまくやっておくわ。思うがままにね！

マーリン 迂闊だった…：おまえがアレを狙ってるとはな。だがなんのために？

ヴィヴィアン 知る必要などないでしょう？ どうせあなたはここから動けない。

マーリン 欲に溺れおって。後悔するぞ、おのれの愚かさを。アーサーはきつと探しに来よう。

ヴィヴィアン そうだろうな。だが決して見つからぬ。おまえの姿は既にわたし以外の人間には見えぬのだ。わたしの魔法によって、な。

マーリン 用意周到だな。

ヴィヴィアン 殺されないだけ感謝なさいな。わたしはそろそろ帰るわね。ランズロットたちも心配するでしょうし……じゃあね、マヌケなマーリン。

(ヴィヴィアン、去る)

マーリン まったく、ばかにしておって……。

ガウエイン (恐る恐る出てきて) マーリンさま……？ いらっしやるのですか？

マーリン おまえさんはガウエイン……聞いておったのか？

ガウエイン ……はい、一部始終を。

マーリン ……忘れてくれ、今ここであったことは、すべて。

ガウエイン マーリンさま……これからマーリンさまはどうなるのですか？

マーリン わからん。もしかしたら、二度とここから出られぬかもな。アーサーとも会えまい。

ガウエイン その魔法を解く方法はないのですか？

マーリン ……ないわけではないが……。

ガウエイン あるのですね！ なんですか？ おれ、なんでもします。

マーリン よいのか？

ガウエイン え？

マーリン おまえさんはヴィヴィアンの側についてるんじゃないのか？

ガウエイン ……それは……。

マーリン ワシを封じたのは、おまえさんの君主であるヴィヴィアンだぞ。おまえさんがワシを助けたら、それは裏切りではないか。自らを騎士と名乗るなら、自分の君主に誠意誠意仕えてみせよ。あやつに忠誠を誓う限りはな。

ガウエイン ……おれは……。

マーリン ガウエイン……。

(ガウエイン、そのまま去る)

マーリン ……ワシの役目は終わった、か……。

二幕五場

(暗いなか、飛び交う声)

声 おい、聞いたか？ マーリンさまの話。

声 ああ、聞いた聞いた。いなくなっちゃったってな。

声 お城の兵士さんが総出で探しに出てるっていうじゃないか。

声 わたしのところにも今朝聞きに来たわ。

声 大変ねえ。

声 あのアーサーってコも、一緒になって探してるみたいよ。

声 (子ども) アーサーって王様の剣を抜いた？ 王さまってそんなこともするの？

声 普通の王さまならしないわよ、心優しいお方だねえ。

声 そういえばさ、これ聞いたかい、噂なんだけどさ。

声たち 噂？

声 ほれ、今度、試合をするだろう。王さまを決めるとかいって。

声 ああ、それが？
声 それであのサー・ラインスロットを王に立てようってグ
声 ウィネヴィアとやらたちがなにやら企んでるって話さ。
声（子ども） それって大変なことなの？
声 そ、そりゃあ大変だよ。どういうことだい？
声 さあ……聞いた話だからなんともいえないけど……。

二幕六場

（教会。イズーがお祈りをしているところへ、トリスタン登場）

イズー トリスタン！……どうしたの？

トリスタン ううん、なんでもないよ。ねえ、ここで竖琴の練習し
てもいい？

イズー それは構わないけど……トリスタン、あなた、竖琴には
かり夢中になってないで、勉強とか、剣の練習とかなさ
いよ。あなたもいつかは騎士になるんだから。

トリスタン ならないよ。ぼくは吟遊詩人になるんだ。

イズー また……

トリスタン いいだろ、別に。それにアーサーは……。

イズー ……トリスタン？

トリスタン 姉さん、ぼく、どうしたらいいんだろう？

イズー どうしたの、トリスタン。

トリスタン ぼく、怖いんだ。アーサーがどこか遠くに行っちゃう
みたいで。

イズー ……それで最近、元気がなかったのね。そんなことはないわ、アーサー王はいつまでもあなたの友だちでいてくださるわ。

トリスタン ……アーサーが王様の剣を抜いてから、まともに話してないんだ。前は毎日会って、話して、遊んでいたのに。この前だってアーサーは家にいなかった。……王さまになんかならないでほしかった。

イズー ……トリスタン……アーサー王は引越されたのよ、お城のほうに。

トリスタン お城に？ 全然知らなかった。

イズー トリスタン、あなたに会いたいのよ、きっとアーサー王も同じだよ。ただ、今はお忙しいのよ。

トリスタン わかつてるさ……。

(ガウエイン、登場)

イズー ガウエイン卿。

ガウエイン イズー……トリスタン？

トリスタン ガウエイン……。姉さん、ぼく、帰るよ。

(トリスタンとガウエイン、教会を出る。イズー、教会とともに去る)

ガウエイン 言ったのか？

トリスタン ううん、まさか。そんなことはしないよ、ただ……。

ガウエイン ガレスたちはもう行ったのかな。

トリスタン たぶん。兄さんもモードレッドも、昼過ぎには家を出たみたいだよ。

(と、ケイ登場)

ケイ ん？ ガウエインにトリスタンじゃねえか。なにやってんだ？

二人 ケイ！

ケイ なんだおまえら……(冗談で)アーサーを引きずり下ろす作戦会議でもしてたのか？

二人
！

ケイ　ま、おまえらがあーだこーだやったところでどうもできっこないよな。見てろ、アーサーは強くなるぞ。なんておれが毎日稽古をつけてるんだからな。今度の試合だってきつとアーサーが……

ガウエイン　……。

ケイ　なんだよ、不景気な顔して。……あ、わかったぞ。アーサーが強くなるのが怖いんだろ！

ガウエイン　なに？

ケイ　違うのか？

ガウエイン　当たり前だ！

（ガウエイン、怒って剣を抜く）

ケイ　な、なんだよ、そんなに怒るなよ、冗談だろ！

（ケイ、仕方なく剣を抜く。二人は争いになり、ガウエインが優勢。ケイ、剣を落とし、転げる）

ガウエイン　覚悟はいいか、この卑怯者！（剣を振り上げる）

ケイ　ま、待った待った、降参だ、剣を下ろしてくれ！　慈悲

を！

ガウエイン　うるさい！

（と、アーサー、マーリンを探しながら出てくる。トリスタンはガウエインが剣を振り下ろそうとするのを止める）

トリスタン　ガウエイン！　もうやめなよ、ケイは降参するって言ってるんだ。

ガウエイン　止めるなトリスタン！（トリスタンを振り払って）覚悟！

（ガウエイン、剣を振り下ろす。と、アーサー、それを自らの剣で受け止め、そのまま押し返す）

アーサー　ガウエイン……どうしたんだよ？

ガウエイン だけ、アーサー！ これはおれとこいつとの戦いなんだ。

アーサー ケイはもう降参したんだろ？ これ以上やる必要はないじゃないか。

ガウエイン うるさい！ ケイ、騎士なら降参などせず、最後まで戦え！ だれも手を出すな！

アーサー いやだ！ そんなに言うなら、ぼくが相手になってやる。ガウエイン ……ふん、いいだろう。手加減などせんぞ！

(アーサーとガウエインの戦い。初めはガウエインが優勢だったが次第に互角となり、最終的にはアーサーが勝つ)

ガウエイン ……。

アーサー ……ガウエイン、自分よりも弱いものをいたぶるのは騎士じゃないよ。たとえ相手も騎士であったとしてもね。

慈悲を乞うものには与えてやるべきだ。

ガウエイン ……ふん、おめでたいやつだ。だが安心した、その程度じゃ、おれは倒せてもラインスロットは倒せん。せい

ぜい、腕を磨くんだな。

(ガウエイン、去る)

ケイ あ、あのやろう…

トリスタン やめなよケイ。さっきさんざんにやられたばかりじゃないか。

ケイ なんだと、おれは…

アーサー ケイ！ トリスタンの言うとおりでよ。いったいなにがあったのさ。

ケイ べ、別に、あいつがいきなりキレやがってさあ。

アーサー おおかた、ケイがなにか気に障るようなことでも言ったんだろ。

ケイ そ、そんなこたねえよ、たぶん…ま、まあ、それよりおまえ、また一人で城を出てきたのか？ 危ないだら、ちゃんと兵をつけろよ。

アーサー いけない？ だって面倒くさいんだもの…：：：そうそう、ぼく、マーリンを探しに来たんだ。ねえ、トリスタン、

知らないか？

トリスタン え？ ううん、知らないよ。

ケイ んん？ 本当かあ？ 怪しいなあ……おまえ、噂じゃア
ーサーを引きずり下ろそうと企てるっていうじゃない
か。信じちゃあいなかったが、さっきの様子を見るとな
あ。(からかうように) グウィネヴィアと一緒にこう(な
にかで殴るような仕草) やっちまったんじゃねえのか？
アーサー ケイ！ トリスタンがそんなことするはずないじゃない
か。その噂だって嘘さ、トリスタンはぼくの親友なんだ
から。

トリスタン ……ごめん、アーサー。ぼく、行くところあるから：
。(去る)

アーサー え……トリスタン？

ケイ なんだ、あいつ……だ、大丈夫だって、きっと大事な用
事があるんだろうさ。

アーサー (不服そうに) ケイがあんなこと言うからだよ。

ケイ なんだよ、おれのせいだったのか？ とにかく、そろそ
ろ練習の時間だ。行こうぜ。

アーサー ……うん……。

ケイ なんだよ、心配するなって……なにかあったらおまえに
だって言うはずだ、そうだろ？ トリスタンはおまえの
親友なんだから。

アーサー ……うん。

ケイ ……さって、早いところ練習始めようぜ。暗くなったらで
きねえからな。行こうぜ。

(二人、去る)

二幕七場

(ガレス、モードレッド、ヴィヴィアン板付き。ガウエイン登場)

ヴィヴィアン 来たか。

ガレス よかったあ、おまえが来なかったらどうしようかと思っ
たぜ。昨日、あんなこと言ってたしよ。

モードレッド まったくだ。で、やるんだろ？ ガウエイン。

ガウエイン ……ああ。

ヴィヴィアン ふん、どのみち、おまえたちはやるしかなからう。

方法は昨日のとおりだ。……トリスタンはどうした？

モードレッド そういえば……おい、どうした？

ガレス さあ……一緒に出てきたら怪しまれると思って、あとか
ら来るように言ったんだが。

ガウエイン トリスタンならさっき会った。すぐに来ると思うが。

モードレッド ったくこんなときに、なに道草食ってんだ、あいつ
は。

ヴィヴィアン 逃げたか……。

ガレス まさか、あいつに限ってそんなことは！ きっと先に行

ってしまったんでしよう、あいつ、けっこうせつかちだ
から。

ヴィヴィアン ……まあいい。城の鍵はグウィネヴィアが開ける手
はずになっている。

ガレス で、もしもアーサーがいたらどうするんです？

ヴィヴィアン やつはきつと出かけていよう。万が一、なかにだれ
かいたら顔を見られぬように襲ってしまえ。そして必ず
や、聖剣エクスカリバーを盗み出すのだ！

二幕八場

(城内。グウイネヴィアとモーガン、言い争いをしている。そこへアーサーとケイも、言い争いをしながらやってくる)

アーサー ただいま!

モーガン アーサー王! お帰りなさいませ。

アーサー 王女さま、聞いて! ぼく、今日初めてケイに剣で勝ったんだ!

ケイ だからアレは本気じゃねって……

グウイネヴィア 当然よ、四日後にはラーンスロットさまと戦うのよ。ケイ卿にくらい勝てなきゃ……

モーガン グウイネヴィア! あなたったら、どうしていつもそんなの?

グウイネヴィア だって本当のことですわ。(アーサーに)あなたにはこれっぽっちの期待もしていないし応援する気もないけど、それなりの試合にしてもらわなきゃ、ラーンスロットさまに失礼よ。

アーサー 勝ってみせるさ、絶対。それにこの剣もあるからね。

グウイネヴィア 知ってる? そういうのを他力本願っていうのよ。

アーサー タリキホンガン?

ケイ 失礼なこと言うな! どんなに武器が強くても、それを使いこなせなきゃあ強いたあいえねえんだからな。

アーサー (まるで聞いていない)ケイ、ぼく、マーリンを探しに行ってくるね。

ケイ え? おい、今から学問の時間だぞ。

アーサー いいよそんなの、また今度で。

ケイ おれは行かないからな。さっきの練習で、もうくたくたなんだ。

アーサー いいよ、一人で行ってくる。

グウイネヴィア (しばらく考えて)……そうだわ、アーサー。ならその剣、お預かりしますわ。

アーサー え? なんだよ急に、気持ち悪いなあ。

グウイネヴィア 失礼ね、レディーに向かって! だって、持ち歩くには邪魔でしょう?

ケイ だったらおれが部屋まで持って行ってやるよ。

グウイネヴィア いいえ、あたしが。あたし、モーガン王女さまの
侍女なのよ。

(と、ケイとグウイネヴィア、口論を始める。その間にモーガ
ンは兵を呼び、アーサーにつくよう、仕草で指示する)

アーサー だれだっていいよ！(そばにいたケイに剣を渡して)じ
ゃあ、行ってくるね。
モーガン お気をつけて。

(アーサー、兵、去る)

ケイ では、アーサーの部屋に行きますので、失礼いたします。
グウイネヴィア あ、鍵がかかっているはずですわ。あたし、開け
てきます。

(ケイ、グウイネヴィア、口論しながら去る)

二幕九場

(城内、アーサーの部屋の前。怪しい音楽とともに、ガウエイ
ン、ガレス、モードレッドがあちこちから顔を出す)

ガレス あの部屋だ。

モードレッド しっ、声がでかいぞ。

ガレス 開けてみようぜ。

(ガレスとモードレッドでドアを開ける。と、なかではグウイ
ネヴィアとケイが言い争いをしている。二人、それを見て慌
てて閉じる)

三人 ケイだ！

ケイ (ドアを開け出てきて) なんだあ？ な、なんだおまえ
らは！

グウイネヴィア あっ！

三人 やっちなまえ！

(ケイと三人の戦い。ケイはグウイネヴィアにだれを呼んでくるように支持するが、グウイネヴィアはしばらく戦いに見入って動かない)

ケイ おい、早く……！
グウイネヴィア あっ……は、はい！

(グウイネヴィア、去る。三人隙をつき、ケイが倒れる)

ガウエイン エクスカリバーは？
ガレス あった、きつとこれだ。
ケイ 渡すか……！

(ケイ、鞆を掴んで放さない。そのうちにモーガンがグウイネヴィアを探しながら登場)

モーガン きゃああああ！

モードレッド しまった、おい、早くしろ！
ガレス わかっている……(鞆から剣を抜いて奪い) 行こう！

(三人、去る)

ケイ エクスカリバーが……！
モーガン だれか、だれか！(繰り返し返す)

二幕十場

(モーガン、ケイ、グウィネヴィア板付き。アーサー、兵と連れ立って登場)

アーサー (兵に下がるよう合図して) ありがとう、もういいよ。

(兵、一つ礼をして去る)

アーサー ただいま。ねえ、マーリンはまだ……？ (ケイを見て)

ケイ? どうしたの?

ケイ アーサー……。

グウィネヴィア 昨夜、アーサーが城を出てすぐ、何者かが城に忍び込んだのよ。それでそのとき、あなたの部屋に居たケイ卿が襲われましたの。

アーサー どうして……

ケイ アーサー、おまえの剣……エクスカリバーが盗まれた。

アーサー えっ?

ケイ どうやらやつら、エクスカリバーを狙って来たらしい。残っているのは鞘だけだ。

(と、イズー、薬箱を持って登場)

イズー 薬を持ってまいりましたわ。(ケイの手当てをする)

アーサー いったい、だれが?

グウィネヴィア みんな顔を隠していたから、わからなかったわ。

モーガン 襲ってきたのは三人でしたわ。恐らく、皆男性でしょう。

イズー 三人……まさか?

(エクター登場)

エクター 失礼いたします。王女さま……

モーガン 見つかったの?

エクター いえ。しかし、教会の近くで怪しい人物を見かけたという情報が入りました。今、近辺の搜索をしています。

モーガン ……そう。

アーサー ……。

(と、アーサー、一度去って、王様の剣を持って再登場)

エクター アーサー王？ どこへ行かれるのですか？

アーサー 決まってる、そいつらを探し出して痛い目にあわせてやる！

エクター おやめください！

アーサー いやだ！ ケイの敵をとるんだ！

エクター ……！

(エクター、アーサーの頬を叩く。一同静まり返る)

エクター 落ち着いてください。

アーサー ……父さん……。

ケイ 親父……。

エクター お気持ちはわかります。私もケイの父親として、同じように憤りを感じているのです。しかし、アーサー王。あ

なたは王として、冷静にこの事態を見つめる必要があるのです。

それに私が言うのもなんですが、ケイは力のある騎士です。そのケイがここまで怪我を負わされたのです。とてもあなたさまお一人で敵う相手ではありませんまい。

アーサー ……。

ケイ アーサー、それよりもエクスカリバーだ。もしも悪用されちまったら……。

モーガン そのとおりですわ。お渡ししたときに申し上げましたとおり、あの剣は他のどんな剣よりも強い力を持っています。人の命など簡単に奪えてしまえましょう。

エクター アーサー王。

アーサー ……。

モーガン ……もう、すぐ日も昇るでしょう。アーサー王、少し休まれては。

アーサー ……うん、そうするよ。

(アーサー、去る)

グウイネヴィア ……まったく子どもね、怒りに任せてあの人たちを倒しに行こうなんて。

(モーガン、グウイネヴィアをじっと見つめる)

グウイネヴィア だ、……だってそうですわ、彼ら、とても強かったですもの！ まして三対一だなんて……

モーガン そうね。あなたもさぞ、怖かったでしょう。怪我がなくて本当によかったわ。

グウイネヴィア ……王女さま……でも、ケイ卿が……

ケイ ばーか、これくらい、大したことない……

エクター 強がりおって。(軽く叩く)

ケイ いっ……なにすんだよ親父！

(など、二人、アドリブで騒ぐ)

モーガン さ、あなたも少しお休みなさい。日が昇れば忙しくなる

わ。

グウイネヴィア ……。

二幕十一場

(ガウエイン、モードレッド、ガレス登場。ガレスはエクスカリバーを抱えている)

ガレス だれもないな？

モードレッド ああ、大丈夫だ。

ガレス うまくいったな、これできっとランスロットさまが：

：

ガウエイン それより、トリスタンは？

モードレッド そうだ、結局来なかったな。

(トリスタン登場)

ガレス トリスタン！ おまえ、いったいどこでなにしてたんだ？

トリスタン ごめん、兄さん。でもぼく、考えたんだ。もうやめて

よ、兄さん。こんなの卑怯だよ、剣を返しに行こう。

ガレス なに言ってるんだ、そんなことできるわけないだろう。

この計画が成功すれば、アーサーは王さまになんかなれやしない。ずっとおまえの親友だ。

モードレッド もうそろそろ、ヴィヴィアンさまがエクスカリバーを取りに来る。それでヴィヴィアンさまがランスロットの剣とすり替えれば、アーサーなんかには勝ち目はねえってわけだ。

トリスタン そんなことうまくいくはずないよ。だいたい、考えてもみなよ。騎士なら剣が違えば気付くだろう。兄さん、ぼくは抜けるよ。これ以上、アーサーを裏切りたくない。

ガレス トリスタン、おまえ……！！

ガウエイン やめろ、ガレス。やめたいならやめさせてやればいい。

ガレス ガウエイン、でも……わかったよ。

トリスタン ……兄さんたちも、もう一度よく考えて。じゃ。

(トリスタン、剣は諦めて、去る)

ガレス ……。

モードレッド ったく、あのやろう、来ねえと思ったら……気にす

ることねえよ、ガレス。

(と、ヴィヴィアン登場)

三人 ヴィヴィアンさま。

ヴィヴィアン どうやらうまくいったようだな。

ガレス もちろんです、ほら。(剣を差し出す)

ヴィヴィアン 鞆はどうした？

ガレス 鞆は：：ケイ卿が掴んで放さなかったのです。でも、剣

さえあれば：：

ヴィヴィアン わたしが欲しいのは鞆のほうだ！ 役立たずめ：：

これでは作り方がわからん。

モードレッド 作り方？ なんのです？

ヴィヴィアン おまえたちが知る必要はない。：：これからしばらく

くは城の警備も厳しくなるな：：このままでは鞆が手に

入らぬ：：

ガレス でも剣はあります。これをラインスロットさまがお使い

になれば、きつとラインスロットさまが王になりますよ。

ヴィヴィアン 黙れ！：：仕方あるまい、ほかに方法もない。

ガウエイン 始めからラインスロット卿を王にすることは目的では

なかったのですね。

三人 ！

ガウエイン なにが目的なのですか？ なんのために、エクスカリ

バーを：：！！

ヴィヴィアン 黙れ。聞いてなかったか？ おまえたちが知る必要

などない。

ガウエイン (カッとなり剣を引き抜いて) その剣を返していただ

きたい。

ヴィヴィアン ふん、だれが：：！！

(ヴィヴィアンの魔法。ガウエイン、吹っ飛ばす)

ヴィヴィアン わかるか？ やろうと思えばわたしはいつでもおま

えたちの命を奪えるのだ。

ガウエイン なにを：：。

ヴィヴィアン ガレス。トリスタンはどうした？ 先に行っていたのではなかったのか？

ガレス ! : : : トリスタンは : : : !

ヴィヴィアン 今見たであろう。これはほんの序の口 : : : いいか。

裏切り者は生かしておかん。計画を知った者もな。たとえそれがだれであろうと、だ。

ガレス そんな！ トリスタンは : : : あいつはもともと乗り気じ

やなかったんです。ですからヴィヴィアンさま、それだけはお許しください。

ヴィヴィアン よい。だがやつをよく見張っておけ。もし裏切れば : : : わかっているな。

(ヴィヴィアン、去る)

モードレッド : : : ガレス : : : 。

(と、ガウエイン、教会の方向に走り去る)

モードレッド お、おい、ガウエイン！ : : : な、なんだよ、大丈夫

夫だって。な？ 帰ろうぜ、これで全部、うまくいくんだ。

ガレス : : : これよかったのかな : : : 。

モードレッド ガレス : : : 。

二幕十二場

(だれもない教会。トリスタン、登場)

トリスタン 姉さん? ……いないのか。

(トリスタン、座り込んで豎琴を奏でる。と、アーサー登場)

アーサー マーリン! マーリン:…いないか。…:トリスタン!
トリスタン アーサー! ……あ、マーリンさま、まだ見つからないだね。

アーサー うん。ホント、シンシュツキボツなんだから。…:(自慢げに)このあいだ習ったんだ。

トリスタン この場合、ちょっと違うんじゃない?

アーサー えっ! ……まあいいや。トリスタン、あれから見えない?

トリスタン うん:…でもいいの? 試合は明日なんだよ。マーリンさまだってまだボケちゃいないさ、すぐ帰ってくるよ。

それよりも剣の練習をしないと。

アーサー わかってるさ。…:でもさ、やっぱり:…なんか不安なんだよ。実は昨日、エクスカリバーが盗まれて、オマケにケイも怪我をしちゃって。どうしたらいいか、わかんないんだ。

トリスタン 練習するしかないさ。それで明日、ランスロットを倒すのさ。

アーサー そうしたらぼくは王さまになる。

トリスタン そのための試合だろ?

アーサー きみは喜んでくれるかい?

トリスタン え?

アーサー もしぼくが王さまになったら、この国すべての人を幸せにしたい。そうしてみせる。…:でも、それできみがいやな思いをするなら:…:きみと友だちでいられなくなるなら、ぼくは試合なんかしない。

トリスタン アーサー:…:ばかだなあ、そんなわけないだろ。なんだよ、急に。

アーサー このところ、ずっと話もできなかつただろ。

トリスタン ……いいかい、アーサー。きみ、いつも言ってたじゃないか、『もしも王さまになれたら……』。ぼくはね、それが現実になるかと思うとわくわくするんだ。

アーサー トリスタン。

トリスタン 絶対勝ってよ。アーサーが王さまになったら、毎日夕食食べに行くからさ。

アーサー (アドリブで一言)

(ガレス登場)

ガレス トリスタン！ここにいたのか、よかった。

トリスタン 兄さん……どうしたの？

ガレス いや、なんでもない……ちよつとな。

(エクター、イズー登場)

エクター こちらにおられましたか、アーサー王。

イズー ご無事でよかったですわ。さ、お城へお戻りください。

昨夜のこともありますし、王がいなくなったことで騒ぎになっていきます。

アーサー ああ、しまった。出かけるって言うの忘れてた。うん、すぐ戻るよ。

エクター お城に着きましたら、剣の練習です。今日はケイの代わりに私がお相手いたしますよう。

アーサー はい。……あ、トリスタン、きみも一緒に来ないか？

トリスタン え？

アーサー 前はいつもそうだったじゃないか。きみの歌もずいぶん聴いてない。……ね、いいだろ？ 行こう。

トリスタン うん！

(アーサー、トリスタン、エクター、連れ立って去る)

ガレス あ、トリスタン……！

イズー 兄さん！ (ガレスを引き止めて) ……訊きたいことがあるの。

ガレス あとにしてくれないか、今はトリスタンを……

イズー トリスタンがどうかしたの？

ガレス あいつの命が……（ハツとしてやめる）

イズー ……やはり、ちゃんと聞かせてもらわなくちゃならない

みたいね、兄さん……。

二幕十三場

（ファンファーレが鳴り響く。ラインスロットたちの宿所の前。

エレイン、座り込んで遊んでいる。そこへラインスロットが

朝の運動を終えて登場）

ラインスロット エレイン。どうしたんだ、こんなところで。

エレイン ラインスロット待ってたの。

ラインスロット なかにいればいいのに。ヴィヴィアンさまは？

エレイン もう試合の会場に行ったよ。

ラインスロット そう。さあ、支度をしよう。早く行かなくちゃ。

エレイン ……ねえ、ラインスロット。ヴィヴィアンさまって、本

当の家族じゃないの？

ラインスロット え？

エレイン ラインスロットも、養子だと本当の家族じゃないの？

ラインスロット どうしてそう思うんだ？

エレイン アーサーがそう言った。

ラインスロット ああ……でもあれは……そういうことじゃないと

思う。

エレイン　じゃあどうということ？

ラインスロット　それは……。

エレイン　本当の家族ってなに？　エレインの本当の家族ってどこにいるの？

ラインスロット　エレイン。

エレイン　ヴィヴィアンさま、お母さんじゃないの……？

ラインスロット　エレイン、そんなことはない。ヴィヴィアンさま

は私たちのお母さんだよ。

エレイン　本当のお母さんじゃない。

ラインスロット　……私も、エレインくらいのとくに同じことをヴィヴィアンさまに言ったことがあるんだ。初めて自分が養子だと知った日にね。

エレイン　ラインスロットも？

ラインスロット　悔しくて、悲しくて、ヴィヴィアンさまに八つ当たりした。

エレイン　ヴィヴィアンさまに!？

ラインスロット　そう。でも、そのときヴィヴィアンさまは怒らず

に私を慰めてくださった。そして、実の母ではなくても、これからもずっと母でいてくださると、私を本当の子と思ってくれると言ってくくださったんだ。

エレイン　……。

ラインスロット　でもまあ、そのあとこっぴどく叱られたけど……

：エレイン、例えば血が繋がっていなくても、私たちは家族だよ。私たちは絆で繋がっている。だろ？

(と、そこへヴィヴィアン、剣を持って登場。鞘こそラインスロットのものだが、本体はエクスカリバーである)

ヴィヴィアン　なにをのんびり話しておるのだ。(剣を渡しながら)

ほれ、ラインスロット。ウォーミングアップが済んだなら、さっさと会場に来んか。

ラインスロット　すみません、ヴィヴィアンさま。

ヴィヴィアン　菓子は？　菓子！　わたしはお菓子を食べているときが一番幸せだ。

(ヴィヴィアン一度去り、菓子袋を持って再び出てくる。ランスロット、やれやれというふう息をつき、それから剣を抜いて何度か振る)

ランスロット ……ヴィヴィアンさま、これは私の剣ではありません。

エレイン え？(剣をじろじろと見て)……アーサーの剣に似てる。

ね、ヴィヴィアンさま。

ヴィヴィアン ……そう見えるか？

(ヴィヴィアンの魔法。二人に魔法がかかる)

ヴィヴィアン ランスロット。それはおぬしの剣だろうか？ 違うのか？

ランスロット ……私の……剣……？

(ガウエイン登場)

ランスロット ガウエイン卿！

ガウエイン (ランスロットの剣を見て) ランスロット、あなたが今手に持っているその剣を、こちらに渡していただきたい。

ランスロット なにを……

ガウエイン その剣……エクスカリバーさえあれば、マーリンさまにかけられた魔法が解けるのだ！

ランスロット 魔法？

ヴィヴィアン 放っておけ、ランスロット。急がぬと試合に遅れる。

ランスロット でも……。

ガウエイン (剣を抜き、ランスロットに突きつけて) その剣をよこせ！

(ランスロット、反射的に剣で剣を払い、短い戦いが始まる。エレインはおろおろしてヴィヴィアンの後ろに隠れ、最終的にランスロットが勝つ)

ヴィヴィアン あんな騎士にこんな時間をかけるとは情けない。

ラインスロット ヴィヴィアンさま、どういふことですか？ この

剣はいったい……？

ヴィヴィアン おまえの剣だ。

ラインスロット ヴィヴィアンさまが魔法で私の剣に見えるように

しているんでしょう。それくらいわかります。

ヴィヴィアン おまえは……わたしが信じられぬというのか？

(ガウエイン、言い争っている二人を見て、ラインスロットから剣を奪い取り、去る)

エレイン あ、剣が！

ラインスロット ……あとで、ちゃんと話を聞かせてください。

(ラインスロット、エレイン、去る)

ヴィヴィアン ……ガウエイン、あいつめ……裏切りおって……

なぜだ？ こんなこと、わたしの予知にはなかった……。

(ヴィヴィアン、少し考えてから首を振り、去る)

二幕十四場

(金床の広場。ガウエイン、エクスカリバーを持って登場)

ガウエイン マーリンさま！ マーリンさま！ 剣を、エクスカリバーを持ってまいりました。これで今、あなたさまにか
けられた魔法を解いて差し上げます！

マーリン(声) 無駄だ。

ガウエイン マーリンさま？ なぜです！

マーリン(声) 剣には魔法を解くような力はない。その力を持つのは鞘のほうだ。それに……その剣は王のみぞ使える剣。ほかの者が持つても無意味なのだ。

ガウエイン そんな……！

マーリン(声) ……よい。ガウエイン、おまえさんはよくやってくれた。ヴィヴィアンの言うとおり、ワシの役目は終わったのだろう。今やアーサーには多くの仲間がいる。おまえさんのような、な。

ガウエイン マーリンさま……！

(と、そこにアーサー、トリスタン、モーガン、エクター登場)

アーサー あれは……！

モーガン いたわ、捕らえなさい！

(エクター、ガウエインを取り押さえる。トリスタンはエクスカリバーを取り上げ、アーサーに渡す。ランスロット、エ
レイン、登場)

ガウエイン どうしてここに？ もう試合の時間では……。

モーガン あなたの仲間が、みんな話してくれたのよ。

ガウエイン え？

(イズーとケイに連れられ、ガレス、モードレッド、グウィネ
ヴィア登場)

ランスロット これは……どうということなんですか？

(ヴィヴィアン、ゆっくりと登場)

ランスロット ……その剣は、やはりアーサー王のものなのですね。

ガウエイン そうだ。

ランスロット では、なぜそれが私のところに？

ガレス おれたちが盗んだんです。そしてヴィヴィアンさまがあなたの剣とすり替えました。エクスカリバーをランスロットさまが使えば、必ずアーサーに勝てると思ったんです。

エクター なら、どうしてそれをまた、取り返してきたんだ？

ガウエイン ……エクスカリバーさえあれば、マーリンさまにかけられた魔法を解くことができるのです。

全員 魔法？

アーサー どういうこと？

ガウエイン もうご存知のとおり、おれたちはヴィヴィアンさまと徒党を組んでおりました。しかし、おれは見てしまった

んです。ヴィヴィアンさまが魔法でマーリンさまを封じてしまうのを。

ケイ マーリンさまを？

モーガン いったいどうして…

アーサー ヴィヴィアンさま！

ヴィヴィアン そんなに不思議か？

全員 ！

ヴィヴィアン あやつがわたしにとって邪魔だった。だから封じてやったのだ。

イズー そんな……あんなに仲がよくていらしたのに。

ヴィヴィアン そう見えたか？ そうだろうな、人間とは単純な生き物だ。ちよつとそれらしく振舞っておけば勝手に思い込む。まったく、愚かなものよ！ そう思わぬか？

グウィネヴィア お姉さま……

ヴィヴィアン のう？ ひたすらにだれかのために働いて、そのために財も地位も失っていく。わたしはそんな愚かなことはせん。なにも失うことなく、欲しいものすべてを手に入れてやる！

ラインスロット なにをお考えですか。

ヴィヴィアン わからんのか？ なぜわたしがおまえを拾い育てた

か：：わざわざおまえにあの王様の剣を抜けるようにし

たか。すべてエクスカリバーを手に入れるためだ！

ラインスロット ヴィヴィアンさまがそんなことを？

アーサー どうしてエクスカリバーを？ 第一、これならさっきま

で：：

ヴィヴィアン わたしが欲しいのは鞘だ！ 鞘に隠された伝説のお

菓子の秘密を知りたいのだ。

エレイン 伝説のお菓子？

ヴィヴィアン 一口食べればこの世のだれより幸福になれるという

究極のお菓子：：だれにも渡さぬ。あれはわたしだけの

ものだ！

ガウエイン そんなもののためにマーリンさまを：：友情を裏切っ

たというのですか？

ヴィヴィアン そんなもの？ 友情こそそれだ。くだらん：：もう

よい。闇の牢獄でその惨めな人生を悔いるがよい！

(ヴィヴィアンの魔法。全員ストップモーション)

ヴィヴィアン まったく、おめでたいやつらだ：：友情だとか絆だ

とか、バカバカしい。

アーサー (動き始めて)：：？ なんだ：：みんな？

ヴィヴィアン アーサー？

アーサー みんなに魔法をかけたんだね：：すぐに解いて！

ヴィヴィアン : : : おのれ：：！

(ヴィヴィアンの魔法。アーサー、それに立ち向かう)

ヴィヴィアン なぜ：：なぜだ：：わたしの魔法がなぜ効かん？

アーサー エクスカリバーの力だ：：ヴィヴィアンさま、もうやめ

て！ こんなことしたって、幸せになんかなれやしない！

ヴィヴィアン 黙れ！ 知ったふうな口を利くな！ この二十年、

伝説を頼りに必死で探した：：たった一人で。おまえに

なにがわかる？ わたしに、ほかに幸せになる道など残

されていないのだ。

アーサー そんなこと、あるはずないだろ！

(アーサー、ヴィヴィアンの魔法を打ち破る)

アーサー 伝説のお菓子なんかなくなっちゃって、ぼくは幸せだよ。ぼくの周りには、いつも父さんやケイ、トリスタン、王女さまにグウイネヴィアにラーンスロットに……みんな！
みんながいる！

(アーサーが名前を呼ぶと、順々にみんな動き出す)

全員 アーサー(王)……！

アーサー ヴィヴィアンさまだって同じだろ？

ヴィヴィアン ……知らぬ、そんなもの！ ……知らぬ。なぜ？

こんなこと、わたしの予知にはなかった。どこで狂ったのだ？ すべて……うまくいくはずだったのに。

モーガン 未来はだれにも決められません。

ヴィヴィアン ！

モーガン ヴィヴィアンさま……今、ここにアーサーが存在するのは、二十年前、わたしの父、ウーゼル王の死や戦争をあなたが予知してくださったからです。未来を予知する力を、私利私欲のためには使わなかったではありませんか。それに、どうしてこんなことをなさったのですか？ 神はそんなことに使うためにヴィヴィアンさまにその能力をお与えになったのではないはずですよ。

ヴィヴィアン うるさい！ わたしがこの能力のためにどれほど不幸な目にあっただと思う？ 他人など信用できぬ。いつ手のひらを返すかわからぬからな……仲間だと？ そんなものは人間が作り上げた偶像だ！

(ラーンスロット、ゆっくりヴィヴィアンに歩み寄り、頬を叩く)

ラーンスロット ヴィヴィアンさま。

ヴィヴィアン ラーンズロット……ふん、しょせんおまえも人間だものな……。

歌「母、仲間」

ラインスロット ヴィヴィアンさま。私はずっと、あなたの子どもです。だからそんな寂しいこと、もう言わないでください。

エレイン ヴィヴィアンさま。

ヴィヴィアン ラインスロット……エレイン……。

アーサー ヴィヴィアンさまは一人なんかじゃないよ。

ヴィヴィアン！

アーサー だってもう、友だちじゃないか。ヴィヴィアンさま、ぼくはヴィヴィアンさまにも、いつでも、いつまでもこの国にいてほしい。

グウィネヴィア そうよ、アーサーの言うとおりですわ、お姉さま！

わたし、ずっとお姉さまと一緒にいたいですわ。(と、ちらとイズーを見て)……ごめんなさい。

イズー (微笑んで) みんな想いは同じですわ。ね。

(一同、頷く)

モーガン ヴィヴィアンさま。もうあなたは、この国にとっていないくちはならない存在なのです。それをお忘れにならないでください。

グウィネヴィア 地位も富みも、お菓子だって、人を幸せにはしてくれませんか。

アーサー お菓子はみんなで食べるから、幸せになれるんだよ。

(みんな、アドリブで同意を示す)

ヴィヴィアン おまえたち……。

ラインスロット お菓子なら私が作って差し上げます。だから、もうそんな顔、なさらないでください。

エレイン ヴィヴィアンさまはずっと、エレインのお母さんでしょ？
ヴィヴィアンさま。

ヴィヴィアン ……。

マーリン(声) やれやれ……どうやら一段落つきそうですな。

全員 この声は……！

マーリン（声） ヴィヴィアン、おまえさんの言うとおり、人間は本当に愚かだ。しかし、それはおまえやワシとて同じことよ。身にしてみてもわかったろう。

ヴィヴィアン マーリン……わたし……。

マーリン（声） おまえさんには辛い思いをさせた。すまなかったな。

ヴィヴィアン マーリン。

マーリン（声） さて、アーサー王。あなたさまが聖剣エクスカリバーを使いこなすお姿、しかと拝見させていただきましたぞ。

アーサー え？

マーリン（声） その剣の鞘に邪気を払う力があることはご存知でしょう。王はヴィヴィアンの魔法に囚われた仲間を、見事に助け出したではございませんか。

トリスタン そうだったんだ、すごいじゃないか、アーサー！

マーリン（声） しかしその剣、今回の件に関しては、ここにいるだれよりも罪深いようですな。

グウィネヴィア そうですわ、その剣さえなければあたしたちだって剣を盗もうなんて思いませんでしたわ。

イズー グウィネヴィア、屁理屈を言うんじゃないの。

マーリン（声） アーサー王、こういうことにはいかがかかな？
本日の試合、王はエクスカリバーを使わずに行うというのは。

全員 え？

マーリン（声） それで王が勝てば、国民はより一層、あなたさまを王と認めましょう。

アーサー でも……。

ケイ なに弱気になってんだよ、おれとの特訓を忘れたか？

ガウエイン 心配するな、おまえの強さはおれがよく知ってる。

トリスタン 正々堂々が騎士道だろ？ 剣の力に頼るより、格好いいじゃないか。

アーサー ……うん！

ラーンスロット 参ったな。

ケイ そうと決まれば急ごうぜ。

ヴィヴィアン 待て、アーサー！ ……その前に、マーリンを。

アーサー ヴィヴィアンさま……。

ヴィヴィアン おまえにはまだ、マーリンが必要だろうか？ さあ、
マーリンの名を呼べ、魔法は解ける。
アーサー (頷いて) マーリン！

(魔法が解け、マーリン登場)

全員 マーリン (さま) ！

マーリン やれやれ…アーサー王、ご心配をおかけしましたな。
アーサー マーリン！

マーリン さて、もう参りましょう。国中の民があなた方を待つて
おりますぞ。

(ファンファーレが鳴り響く)

ガウエイン よし、今度こそ、行こう、みんな！ 大遅刻だ。

イズー アーサー王もランスロット卿も、急がないと試合放棄
になってしまいますわ！

エクター さあアーサー王、装備などはもう運んでありますからな。

ケイ おれらも急ごうぜ、一番いい席を取るんだ！

ランスロット ヴィヴィアンさま、私たちも行きましょう。

エレイン ランスロットを応援しなきゃ。ね、ヴィヴィアンさま。

(ヴィヴィアン、微笑む。そのほか、みんなアドリブで去るな
か、アーサーとマーリンは残る。二人は顔を見合わせ、エク
スカリバーを金床に差し、去る)

エンディング

(暗いなか、マーリン舞台中央に板付き。一幕のオープニングと同じ状態)

マーリン さで、ウーゼル王。この広大な緑豊かな国イングランドは、あなたさまのお子、アーサーの手でますます大きな、そして豊かな国になります。御覧ください、アーサーが王となる瞬間を！

—カーテンコール—